



## 講座のアピールポイント

当講座では、痛みを感じるメカニズムやその治療法を発見することを目指した基礎研究と痛み治療に関する臨床へつなげる研究を実施しています。基礎的な研究は本学の基礎医学講座と共同して積極的に行っており、また海外留学による海外大学との共同研究も行っています。麻酔領域では麻酔中の心電図変化に関する臨床研究を行っています。この研究は、手術中の生命にかかわる不整脈の発生を早期発見することが目的です。

講演会なども積極的に実施しており、学会時の市民公開講座を開催しております。また、医療者向けには厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業の関東甲信越ブロック支部として研修会を行っています。厚生労働省政策研究事業のひとつである「慢性疼痛診療ガイドライン」の作成にも関わっており、日本の痛み治療に関する大きな役割を担っています。

## 講座研究紹介

当講座が実施している麻酔中の心電図変化に関する臨床研究は、日本のみならず国際的にも評価されています。上述のように、この研究は手術中の生命にかかわる不整脈の発生を早期発見することが目的であり、このような研究は日本において実施している施設は数か所しかありません。

痛みの研究に関しても、痛みの伝導経路に関する免疫組織学的研究は国際的にも評価されています。

その他に、周術期アナフィラキシーの疫学的調査と全国診断支援システム構築、難治性疼痛及び慢性疼痛に対する学際的治療の多面的評価、医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究、慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究、帯状疱疹罹患後の痒みと QOL に関する調査、慢性疼痛診療体制構築モデル事業、慢性疼痛診療における診療ガイドライン作成事業、AI を使った臨床意思決定支援システム連携など、日本における横断的な研究にも主導や参画をしています。